

## おおつばにし 大坪西遺跡

所 在 地 濑戸市大坪町  
(北緯35度11分39秒 東経137度6分12秒)  
調査理由 国道248号線建設  
調査期間 平成17年11月～12月  
調査面積 380m<sup>2</sup>  
担当者 小澤一弘・樋上 昇



調査地点(1/2.5万「瀬戸」)

調査の経過 本遺跡の発掘調査は、国道248号線の建設にともなう事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成17年11月から12月にかけて実施した。調査面積は380m<sup>2</sup>である。

立地と環境 大坪西遺跡は瀬戸市南部に位置し、東から西に流れる山口川(矢田川)によって形成された沖積地と、遺跡の南東に聳える猿投山から派生する丘陵部との境に立地している。標高は約92mである。

調査の概要 すでに平成12・13年度に、今年度調査区の西側で発掘調査が行われており、縄文後期に属する、南から北に流れる自然流路1条と土器集積遺構4基・土坑2基と、古墳前期の水田跡が確認されている。今回の調査区では、縄文後期中葉の竪穴住居3棟と溝3条、土坑20基、ピット66基および古墳前期の水田区画2筆を検出した。

縄文後期の遺構群では、調査区西寄りで直径約6mの円形住居SB01および、その東に竪穴住居の掘り込み面は失われているが、円形にめぐる柱穴列が確認できたSB02・03がある。さらにSB01の付近には、土坑SK01～12のほか、平面がL字形に曲がる溝SD02がある。うちSB01、SK08～10・12からは、磨製石斧や石鎌のほか、200点近い石器の剥片が出土している。なお、調査区の東端付近では、昭和40年頃に削平された、南からのびる尾根筋を確認し、この尾根筋が遺跡の東限にあたることが判明した。

古墳前期の水田跡は、調査区の西端で南北に並ぶ2筆(ST01・02)を検出するにとどまり、これ以上東には水田域が広がらないことを確認した。さらに水田区画の東には南北溝SD01がある。遺物は縄文後期と古墳前期の土器を含むが、水田区画とは方位が異なることや、水田耕作土と同一層である黒色粘土層を切って掘削されていることから、水田区画よりも新しく、さらにこの溝が洪水によって埋没したのちに形成された土層から山茶碗が出土しているため、中世より以前に機能していたと考えられる。

(樋上 昇)



